

説教題：主の裁きの基準②(36)

聖書：マタイ 12章33～37節

<口語訳>

新約聖書19～ 頁

マタイ 12章33～37節

<新共同訳>

新約聖書23～ 頁

マタイ 12章33～37節

<新改訳第3版>

新約聖書23～ 頁

マタイ 12章33～37節

<塚本訳>

新約聖書103～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日の**12:33～37**は、**パリサイ派の人々**が、**神の御子イエス・キリスト様**を「**悪霊のかしらベルゼブル**」が「**悪霊**」を追い出していると、「**盲人**」を癒されたことを批判したのに対して、**擲揄**を含めて、**比喩・譬え**を用いて、**主**が**反論**、**厳しい審判**を宣言された箇所です。
- ⇒「**審判の日には**」、「**自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ある者とされる**」と、**主**は、**語られた**のです。
- ⇒すでに、「**パリサイ人たちは出て行って、イエスを殺すことを決議した**」(**マタイ12:14**)と、**使徒マタイ**は記していましたが、**主**はご自身の**死が近い**ことを知られたのです。
- ⇒「**悪い実**」、「**悪い倉**」は、明らかに**パリサイ派の人々の言動**を**擲揄**したものです。
- ⇒私たちも、「**聖霊**」を汚すことばが、ないか。

◇本日、**マタイ書12章33～37節**から主の**使信に思い・心をとめます。**

◆**マタイ12章33～37節**；使徒**マタイ**は、盲人の「**悪霊**」を追い出す**神の御子イエス・キリスト様**と「**神の聖霊(25)**」を冒瀆する罪に対して主が、裁きの審判を宣言されたと語っています。

◇**12:33～37節**；塚本訳◆**口は心の実**

「33 木を良いとするなら、その実をも良いとせよ。また、木を悪いとするなら、その実をも悪いとせよ。木(の良し悪し)は実で知られるのである。

34 蝮の末よ、あなた達(自身)が悪いのに、どうして善いことが言えよう。心にあふれて口に出るのだから。

35 善人は(心の)善い倉から善い物を取り出し、悪人は(心の)悪い倉から悪い物を取り出す。

36 わたしは言う、人の話すいかなる無駄言も、(最後の)裁きの日にならずそれについて責任を問われる。

37 なぜなら、あなたはあなたの言葉で義とされ、あなたの言葉で罪とされるのだから。」と、

使徒マタイは主のことばを語っています。

◇**マタイ12章33～35節**は、「木を良いとするなら、その実をも良いとせよ。また、木を悪いとするなら、その実をも悪いとせよ。木(の良し悪し)は実で知られるのである(33)」、「蝮の末よ、あなた達(自身)が悪いのに、どうして善いことが言えよう。心にあふれて口に出るのだから(34)」、「善人は(心の)善い倉から善い物を取り出し、悪人は(心の)悪い倉から悪い物を取り出す(35)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**悪い実**」と「**悪い倉**」の比喩・譬えを語られました。

⇒「蝮の末よ、あなた達(自身)が悪いのに、どうして善いことが言えよう。心にあふれて口に出るのだから(34)」と指摘されたように、主は、主を殺害しようと目論むパリサイ派の人々を蝮の末と呼んで、悪質な彼らの心の思いを表現なさいました。

⇒「蝮」は、猛毒をもつ生き物です。パリサイ派の人々が、本気で妥協なく殺害に及ぶことを表現しておられます。

⇒主は、人間の本質的罪を担って下さいました。

◇**マタイ12:36~37節** ; 「わたしは言う、人の話すいかなる無駄言も、(最後の)裁きの日にかかわらずそれについて責任を問われる(36)」、「なぜなら、あなたはあなたの言葉で義とされ、あなたの言葉で罪とされるのだから(37)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「彼らの言葉」が、「審判の日」には、「裁きを逃れられない」ことを、はっきり宣言しておられます。

⇒「**聖霊**」は、**神の心・思い**です。**神の思い**を無視する罪には、妥協の余地がありません。

⇒私たちも、軽率なことばも、心の中のどんな小さな隠された罪も、**神の前**には、弁解の余地がありません。

⇒唯一の救いの道は、**神と御子イエス・キリスト様と聖霊なる神**に信頼するのみです。

⇒主は、告白する罪を赦して下さいます。

⇒ローマ10:8~10;【口語訳】

8 では、なんと言っているか。「言葉はあなたの近くにある。あなたの口にあり、心にある」。この言葉とは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉である。

9 すなわち、自分の口で、イエスは主であると

告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。

10 なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。

⇒主は、真実な告白には、真実です。

⇒だれでも、パリサイの心に落ちる余地があります。彼らも、本来律法に誠実だった人々でした。併し、自分の考えや思いを優先させ、相手の思いに優先させました。

⇒主は、**神**であられるお方が、人となり、罪のないお方なのに、十字架の死を担って下さいました。

⇒身を低くすることは、卑屈になることでも、妥協することでもありません。

⇒主とともに身を低くする者には、主とともに甦りがあります。

⇒良い実は、良い木から、良い物は、良い倉からです。**御子イエス・キリスト様ご自身**が、良い木であり、良い倉です。与えられる恵みは、すべて主から来るのです。

⇒〈口語訳〉:

ヤコブ 3:17 しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと**良い実**とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日の**12:33～37**は、パリサイ派の人々が、**神の御子イエス・キリスト様**を「**悪霊のかしらベルゼブル**」が「**悪霊**」を追い出していると、「**盲人**」を癒されたことを批判したのに対して、**擲揄**を含めて、**比喩・譬え**を用いて、主が反論、**厳しい審判**を宣言された箇所です。
- ⇒「**審判の日には**」、「**自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ある者とされる**」と、主は、語られたのです。
- ⇒すでに、「**パリサイ人たちは出て行って、イエスを殺すことを決議した**」(**マタイ12:14**)と、**使徒マタイ**は記していましたので、主はご自身の死が近いことを知られたのです。
- ⇒「**悪い実**」、「**悪い倉**」は、明らかにパリサイ派の人々の言動を**擲揄**したものです。

- ⇒ 私たちも、「**聖霊**」を汚すことばがないか。
- ⇒ だれ一人、良い実、良い木、良い倉にはなれません。良い木、良い倉である主とともにいて良い実を結べるのです。
- ⇒ 偽善は、自らを良い物と自己主張することです。
- ⇒ ローマ3:10; 義人はいない。ひとりもない。
- ⇒ **神の国**は、**義の国**で、**御子イエス・キリスト様**と生きる恵みです。